

今回のテーマは、『アダプテッド体育』についてです。

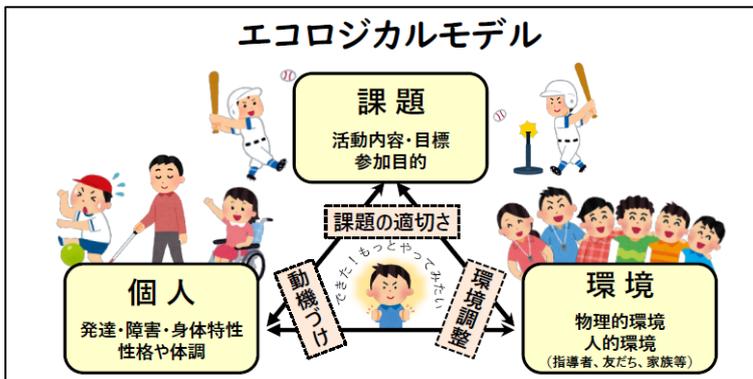
アダプテッドとは・・・

多様な価値の理解と共有(多様性:Diversity)と一緒に授業を行う状態(包摂:Inclusion)をつないでいく必要があります。その両者をつなぐ観点や技術のひとつがアダプテッドです。

アダプテッドを整理すると、右図のようになります。障害のある人を含め、身体活動をするうえで何らかのニーズのある人すべてが対象になります。重要なのは、“その人に合わせる”ことです。



エコロジカルモデル



アダプテッド理論(エコロジカルモデル)では、単に、個人的特性に合わせるだけではなく、課題や環境に合わせて、課題を適正化し、環境を調整し、動機付けしていくことが望まれています。

アダプテッドは、合理的配慮の一部になりますが、単に喪失・困難さの部分のみをみるのではなく、残された部分を捉えることで、本人や活動そのものの可能性を引き出すことに意味をもたせています。

アダプテッド体育の進め方・・・

ステップ1：体育授業のなかで、どんなことに困っているかを把握する。

ステップ2：困りごとのバリアが何か『人』、『もの』、『ルール』の3つに分けて考える。

ステップ3：バリアになっているものを、変更したり、修正したり、何かを加えたり、減らしたりする。



ステップ1：こんな子いませんか？(バレー編)

- ・ボールを怖がってしまう。
- ・ボールを打つことが難しい
- ・ミスして友達に責められるのが嫌だからやりたくない。

ステップ2：バリアはなに？

- ☆ 『もの』のバリア
 - ・ ボールの大きさや硬さが原因で怖い。
- ☆ 『ルール』のバリア
 - ・ 自分の守備範囲が分からない。
- ☆ 『人』のバリア
 - ・ 自分のミスでチームの足を引っ張ってしまうのが心配。



ステップ3：アダプテッドのポイント

☆ 『もの』のアダプテッド

- ・ ボールを風船やビーチボールに変えてみる。



☆ 『ルール』のアダプテッド

- ・ 個人のプレーするエリアを固定するなど、動きやすペースを調整する。
- ・ ワンバウンドでもよいルールに変更して、少し余裕をもってボールへの対応ができるようにする。

☆ 『人』のアダプテッド

- ・ サーブは2本まで打てるようにしたり、自分の好きなところから打てるようにしたりするなど、本人の技能に応じた工夫をする。

